

そうだ、きさいち植物園に行こう！

Let's go to Kisaichi Botanical Garden



5月



ウツギ

- アジサイ科の落葉低木
- 白色の小花が群がるように下向きに咲く
- 和名の空木は幹が中空であるところから名付けられ、花は「ウノハナ」と呼ばれる

5月



タイサンボク

- 北米原産のモクレン科の常緑高木
- 12～15cmの大型の花で強い香りを出す
- 日本各地によく植えられている

5月



ヒトツバタゴ

- 木曾川流域と対馬に自生する雌雄異株
- 花は円錐形の白色
- 別名ナンジャモンジャノキと呼ばれる
- 環境省レッドリストⅡ類に指定

5月



ホオノキ

- 日本特産のモクレン科の落葉高木
- 花は黄色をおびた白色で15cm程度
- 日本の単葉植物では最大級の葉。朴葉焼きや朴葉みそに使われる

※気象状況により開花時期は前後します。現在の開花状況は植物園までお問い合わせください。

トピックス

フェイジョア

フトモモ科の常緑低木で、原産地は中南米です。果樹として植栽され、その果実の特徴から「パイナップルグァバ」という別名もあります。「どんな果物？どんな味？」と気になるところではありますが、今回は花に注目します。



フェイジョアの花は当園では5～6月に開花します。最初に目をひくのが赤と白のコントラストです。赤色は多数のブラシ状の雄蕊です。白色は花弁でよく見ると片面は淡い紫色をしており、花弁は肉厚で触るとふわふわしています。

ぜひ、これからの時期にフェイジョアの花を、そして秋には実を観察しに来園してください。

大阪市立大学附属植物園(愛称:きさいち植物園)

- ☎ 891-2059 ● 交野市私市2000(私市駅徒歩6分) ● HP <https://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/botan/>
- 開園時間 9:30～16:30(入園は16:00まで) ● 休園日 月曜日(祝休日の場合は開園)
- 入園料 大人350円/中学生以下無料 ● 駐車料 普通車500円/マイクロ1,000円
- ※ 65歳以上の交野市民は「植物園メイト」に登録すると入園料が無料になります。



いつかは指定登録されたい

文化財子備軍

河内木綿と機織り

明治時代、市内では綿花を栽培する綿農家がたくさんいたのをご存じでしょうか。河内木綿と呼ばれる良質な綿は市内で盛んに作られ、糸に加工されて私たちの衣服などに利用されてきました。現在、その道具が市内に伝わっており、一度は途絶えた機織りの技術の復元活動も行っています。こうした機織りに関する道具や技術は、人々の生活や生業を伝える貴重な「民俗文化財」です。今回は、綿の育て方や機織りについてお話しします。

綿ってどうやって作るの？

綿はアオイ科のワタ属の植物で、種を植えて栽培します。5月上旬に植え付けると、日差しを浴びてぐんぐん成長します。オクラやハイビスカスに似た黄色い花を咲かせ、初秋頃に実をつけます。実が大きくなりはじけたら、真っ白いコットンボールと呼ばれる綿が顔を出します。綿は白色が一般的ですが、茶色や緑色の種類もあります。



綿の種取り

収穫した綿毛の中には種がいくつも入っています。この種を、綿繰り機という木製の道具を使って取り除きます。2本のローラーの間に綿を挟み込んで横のハンドルをクルクル回すと、道具の手前に種だけが、奥側には種が取り除かれて平たくなった綿が落ちる仕組みです。



糸車で糸紡ぎ

種を取り除いたら糸を作ります。まず、綿繰り機で平たくした綿を綿打ち弓という道具で膨らませます。名前の通り弓状の道具で、ピンと張った弦に綿を絡めて指で「ピンピン」とはじくと綿あめのような形になります。ふわふわの状態に細棒に巻きつけて転がして「し」を作り、糸車に沿わせてよりをかけながら細い糸を紡いでいきます。



機織りってどうやるの？

糸ができると、織るための細かな作業をします。大変な手間と時間がかかりますが、とても重要な作業です。それができると下機と呼ばれる織り機で布を織っていきます。織り上げた布で衣服が作られ、私たちの日常着となります。糸はさまざまな色に染めることができます。こうして織り上がった布は味わい深い、すばらしい布地になります。



交野機織り教室

平成14年、市教委では一度は途絶えていた河内木綿の技術を復元・保護するため教室を立ち上げました。今年で発足から20年目を迎え、教室では交野地方に伝わる機織り技術の復元と将来への継承を目指しています。また、数年ごとに作品展を行い、日頃の成果を披露しています。

スポット展

今月から、教育文化会館1階ロビーで機織りにまつわるスポット展を行っています。お気軽にお立ち寄りください。